

## 登場人物

A、G の計 6 人。 役者の数により増減が可能だが、最低 2 人はいることを推奨する。

## オープニング

明転。

音楽がなる。

F がステージ上のイスに座って本を読んでいる。以下は、F が読みながら妄想している内容の影像。無声映画のように、音楽と身体表現だけで進む。

徐に、A が出てくる。金魚になる。続いて、B が出てくる。猫になり、金魚の背後を取る。次は C。犬になり、猫の後ろにつく。D は、息子になり、少し離れたところから、犬を空気銃で狙う。それを見た E が、父になり、息子の様子をうかがう。G は母になり、全員の様子を見てハラハラする。

ドラムがおおきな「ドン」を鳴らす。金魚から順番に逃げていき、また F だけに戻る。

F、逃げていく騒々しさに気がつき、何かときよろきよろする。

D が出てきて、「なんかイマイチだったから、ちゃんと読んでもう一回やろうよ」と身振りでも伝える。

F、了解し、音楽側に合図する。

同じような音楽がなり、以下、A、G はほとんど同じ動きをする。

今度は、F が声を出して朗読を始める。

たいそうあたたかくなりました。

猫が久し振りにあたたかくなったので縁側に出て見ると、縁側の鉢の中にいる金魚が五、六匹チラチラしています。これは占めた、どうかして取って食べてやろうと思つてジツと鉢の中を狙いました。

犬がこれを見つけて、これはうまいと思いました。ふだんから憎らしいと思う猫が今日は全く気がつかずにいる。今度こそは引つ捕えてひどい目に合わせて遣らうと、猫に気のつかぬようにそつとうしろから忍び寄りました。

二階の窓から坊ちゃんがこれを見つけて、あの憎らしい犬が又猫をいじめてやろうとしている。今日こそは勘弁しないぞと、空気銃にバラ玉を込めて犬のお尻の処をジツト狙いました。

その時お父さまがこれを見つけて、又坊やがいたずらをしている。よその犬に怪我をさせては大変だ。よしよし捕まえて懲（こら）して遣らうと、ぬき足さし足うしろから近寄つてお出でになりました。

室の隅で縫い物をしていらつしたお母様はお父様の様子に気がついて、どうしたのかと思つて窓の外を見ると、猫は金魚をねらい、犬は猫のすぐ後に近寄り、坊ちゃんは犬のお尻を狙つて引き金を引こうとし、お父様は坊ちゃんの襟を捕まえようとしておられます。うっかりすると金魚も猫も犬も坊ちゃんもみんなひどい目に合いそうです。お母様はどうしてよいやらわからなくなりました。

その時にすぐ近所の砲台で耳も裂ける位大きなドンが鳴りました。

金魚は驚いて石の下へ逃げ込みました。

猫はガツカリしてうしろをふり返ると、犬がすぐ足もとにいたので驚いて家の中へ逃げ込みました。

犬はしまったと思つて縁側に飛び上ると、空気銃の弾丸が尻尾のさきをカスツたので驚いて逃げて行きました。

坊ちゃんはガツカリしてうしろを見ますと、お父様が怖い顔をして立つておられたので、

「あれ。堪忍して頂戴」

と言うなりに空気銃を投げ出して逃げて行きました。

「アハハハハ」

とお父様はお笑いになりました。

お母様はホツとしました。

それから間もなく金魚は餌（え）を投げて貰いました。（A、はける）

猫も犬も御飯をいただきました。（B、Cはける）

その時お父様もお母様も坊ちゃんも楽しいお昼の御飯を食べていました。（D、E、Gはける）

「ドン」 夢野久作

F、本を閉じて去る。

音楽が鳴っている。そのまま少し音楽だけの時間。

ステージ上が暗くなっていく。

音楽が、一度収束する。

明転。

演技者たちが出てくる。

- A いや、良かったな。
- B 良かった。
- C 興奮した。
- D 素晴らしかった！
- E うんうん！

本当にそう思っているのかは分からない。

演技者たちは舞台中央のマイクを囲んで、円を描く。台詞は途切れず、

- G あのドラムの響きが
- B (同時に) あのギターの音色が
- E うんうん。
- G いや、ドラムが良いんでしょ。
- B 何を。ギターが素晴らしかった。
- E うんうん。
- G ドラムが
- B ギターが
- E うんうん。
- G・B どっちだよ。
- E うん？
- C まあどっちにしても
- 全員(以下、全) いいよねー
- D 音楽 Aには C人の心 Gを B動かす C力 Aが Eある！

以下、1つの文を演技者たちが分割して読んでいく。それにより、台詞にはリズムが生まれる。

- B 音楽 Aと C感情 Aの G作用 Aに Eついては B様々な研究 Dあるいは体験 Cあるいは計算 Dあるいは予測 Aによる B確かな G結果 Aが Eある！
- B 演奏者 Aの E表現 Aする D感情が E伝わる。(全員、演奏者を見る) B聴く人 Gの C感情 Aが E沸き起こる。(全員、観客を見る)
- Gそして、 C共感 B共振 D共生 Aを D繰り返し、 A音は C広がって Eいく！
- 全(全員) 伝える
- Aと

全 起こす

Bと

全 広げる

Cが D音の E力!

B感情が D心が A動かされる Gとき、 D人は Eエモる。

A ヤバイ。何がっていうと分かんないけどすごかった!

E エモってる。

B はあああ……よかった……感じた……

E エモってる。

C えも言われぬこの感情

E エモってる。

D よし! とりあえずセックスしとこう!

G これはエロってる。

B はあああ……ウヒヒ……

G これはキモってる。

演奏者は、言葉のリズムに合わせて音を鳴らす。それが言葉の基盤になる。

A伝える C気持ち Dと E伝わる C気持ち Dは Aほとんど B一致する。伝わる C気持ち  
ち Cと E起こる C気持ち Dは A大体 B一致する。

A悲しい(発する) E悲しい(受け取る) C悲しい(起こる) A楽しい(発する) E楽しい(伝  
わる) D楽しい(起こる)。 A起こる E気持ち Cは Gズれる Dことも Eある。 A悲し  
い(発する) C悲しい(受け取る) G心地いい(起こる)。

A音は G始まる。 Eいつ? C人間 Dが A生まれる Cずっと B前から。 Eどこ?  
ありと Dあらゆる A場所。 Eどんなふうにな? C始まり Bは Gいつも E身体から

A (パンと手を叩く)

B・E うわ

A え

B え、何? 何? 今の。

A え? 何? 何が? (パン)

E うわ

A え。これ? (パン)

B おお?

A んん?

A・B・E (3人で、パン)

A・B・E おおー。(パン) おおー。

B え、え、ちよい、ちよい待って。

A ん?

- B (足をドン、と鳴らす)
- A・B・E おおおー!
- C え、何何?
- 4人 せーの(ドン) おおおー!
- C あ、あ、じゃあさ、じゃあじゃあ、(胸を叩く)
- 4人 おおおおー! (胸をバン、バン、叩く)
- D ん?
- 4人 ねえねえ、なあなあ、おいおい、(胸をバンと叩く)
- D おおー
- 4人 (思ったより反応がうすくて) ええ……
- D んー、ほいっ (腹をペン、と叩く)
- 4人 おおおおおー!!
- D はっ(ペン!)
- 4人 おおおおおー!!
- 5人で (ペン)(パン)(ドンドン)(バンバン)

演技者たちは、それぞれにストップ。

- G (台本で体を叩き) ん? んん?(台本で違う音が鳴ることに気がつく) おっ?
- B おお。ほうほう。
- C (スティックを拾い、床を叩く) おおー。

演技者たち、1人がスティックであちこちを叩き、周りがついていく。みんなでドラムのところまで行き、下からドラムをテンテン叩いていく。テンテン、テンテンと上がって行き、ドラマーと目が合う。

ドラムソロ。

全 打楽器!

- Aが C生まれた。 E両手を打ち(パン) B足を鳴らし(ドン) C胸を叩き(バン) D腹をはたき(ペン) A物を叩き G棒で叩き D振動が B空気 Eの A振動 Cが D生まれ G耳に A身体に C骨に E届く。
- Cそして B人間 Cは E空気 Aを C知り G呼吸 Aを C自覚し、
- A (ふーっと息を吐く)
- D (その音に気がついて) あ、
- A え?
- D (マイクに近づき) ふうー
- A ああー。

C 息を B 吸うこと E 吐くこと C 音になること D を A 知った! B 口笛 C 貝吹き D 竹 E 金属 G そして B 強弱(A強く吹く) C 長さ(E短く吹く) D で E 音 A の B 違い C が D 生まれた。 E そして D 音階 C ピタゴラス B メロディー A ハーモニー G 律動 C 旋律 B 和音 A そして B そのあと C だいぶあと A 音が B 音楽に E 変わる頃 D 生まれた E 弦楽器!

ギターソロ。

それに合わせて、

(全) 音楽 A は C 音の D 芸術  
(全) 音楽 B は D 音の E 合成  
(全) 音楽 E は C 音の A 規則 D 連続  
(全) 音楽 C は A 音の D 自由 E 断片  
(全) 音楽 D は B 音の A 反抗 C メッセージ  
E 鳴らしたい! A 何を? E 音を D 何で? E 伝えたいから B 起こしたいから A 広げたいから E ただ鳴らしたい! G 誰が? E 私が B どうやって? A 声で D 手で E 足で G 道具で A 誰と? E 誰かと C 君と D 僕と E 私と B 誰かと G そして B わたしたちは C それを D 言葉で E 共有している

徐に、Fが登場する。中央マイクの周りで、円を描き始める。6人のしていることには気がつかない様子。

6人はなおも語り続ける。

C 言葉は D 伝達 E 共有 G 認証 A 表明 B 選択 A 測定 G 拡散 E 拡大の D 手段であり E 社会 G 生活 A 関係 B 勉学 A 教育 G 学校 E 国語 D 算数 C 理科 D 社会 E 保健 G 体育 A 道徳 B 工作 A の G 基礎であり C 始まり D は E 音から。  
A うー  
B あー!  
C うはー  
E イー!  
D うい  
E うほ  
C ははほははほほ  
A あああ  
B いいい  
D あえー  
E があー  
C ヒーー!

A ええー…  
D あ  
C い  
E あ  
F ん？  
E あ・い。  
A 言葉は B 発音され C 意味づけされ A つなげられ B 区切られ C 役づけされ A 分類され B 整理され C 詰め込まれ A 混ぜられ B 喧嘩され C 発展され A 高度化され B 残され C 捨てられ A 生かされ B 殺され C 憎まれ A 愛され B 嫌われ C 頼られ今、A まだ、B ここに、C ある！（台本を提示する）

E 音楽は D 発音され G 意味づけされ E つなげられ D 区切られ G 役づけされ E 分類され D 整理され G 詰め込まれ E 混ぜられ D 喧嘩され G 発展され E 高度化され D 残され G 捨てられ E 生かされ D 殺され G 憎まれ E 愛され D 嫌われ G 頼られ今、E まだ、D ここに、G ある！（演奏者を差す）

演技者たちは2組に分かれ始め、

（同時に）音楽は（言葉は）発音され意味づけされつなげられ区切られ役づけされ分類され整理され詰め込まれ混ぜられ喧嘩され発展され高度化され残され捨てられ生かされ殺され憎まれ愛され嫌われ頼られ今、まだ、ここに、ある！

じわじわと、AとEがそれぞれ中央に近づいていく。

E 音楽 D に G 言葉 D は E いらぬ。A 言葉 B に C 音楽 B は A いらぬ。E 音楽 D は G 言葉 E じゃない A 言葉 B は C 音楽 A じゃない D のに B だから G 出会って C しまった A 出会えた！ B 偶然にも G 必然にも D ずっと昔 C ずっとずっと昔 B 合図記号 D 意思疎通 G 感情表現 E 細分化 A 共同生活 C 集団意識 A 個人の確立 G 友情 D 愛情 E 敵対感情 B 戦争 C 平和 E 退屈 A 刺激 G 出会って D 別れて C 出会って B 繋いで D 初めて C 言葉は G 音楽と B 出会った D 出会って B しまった E 出会えた！

AとE、はじめて互いを意識して、見ようと顔を上げる。だが、見えない。

Fが意図せず真ん中に立って、二人の視界を遮っている。

沈黙。全員、初めてFの存在を認知する。台本から視線をはずす。

E ねえ  
F ?  
E どっち？  
F ?

E どっちから？  
F ？

F、Eの言うことが分からない。戸惑う。  
Fに伝わらないのでEも戸惑う。  
Eが戸惑うのでAも戸惑う。伝播してみんな戸惑う。全員、ギターに助けを求める。  
ギター、音を鳴らす。F、何か気配を感じて振り向くが、キョトン。  
全員、ドラムに助けを求める。ドラム、音を鳴らす。F、振動を感じて驚く。  
全員、台本に視線を戻す。Fの設定を確認するように、

C彼 BはDろう、Gとは、E外部 Aの B音声情報 CをE大脳 Aに D送る Gため Aの B部位 C外耳 D中耳 E内耳 D聴神経 Eいずれかに B障害 Aが Cある Bため Aに D聞こえない Eあるいは C聞こえない B状態、E聴覚障害、G伝音性 Aあるいは D感音性 Cあるいは B混合性 E聴覚障害 Aの D一種、B先天性 Aあるいは C後天性 G原因 Aに Dよる E聞こえない C状態 Aの G一種。  
C彼 Bに、A音 DはG届かない。 Eえっ？ A人が C外耳 D中耳 G内耳 D聴神経 Aを B通してD受け取る C振動 Aの D集合体 Aが、G彼の B大脳までC侵略 Aする Eことは D無い。

全員、ちよつと気まずそうにFを見る。そのまま固まる。Fの時間。テンポやニュアンスが変わる。

Fは、自分を見ている演技者たちを見返して、

F と、彼らは勝手に憶測と偏見で語るけれど、実際音を聞くことは特殊な能力でも何でもなく、ただの振動であるから、僕だって皮膚や骨を通して感じられているし、さつきから彼らが何事かのどんちゃん騒ぎをしていることは気がついていたけど、台本に「気がつかないように」とメモしてあったので「気がつかないふり」をして無視していた。(二度顔を上げて、また戻し)身長体重視力声色見た目思考に千差万別あるように、聴力も千差万別だし、歳をとれば大体の人は聞こえにくくなると思われているし、生きていれば事故だ病気だなんだで聞こえなくなることだってあるだろうし、別に特別悲しいことではないし、ちよつと身長が高くなるように生まれてしまったくらいの違いなのだけだ。

D 大問題だよ  
C 大いに困るよ  
G そうなの？  
A 彼女にとっては

全員、Eを見る。E、呆然と立っている。全員、Fを見る。  
Fは再び円を描き始めている。

- E あの！  
F (気がつかない、ふりをしている)  
C 近づいたら。  
E 近づく？  
D 近づいて A 叩くか B つつくか G 前に回るか C とにかく A 近づいてみたら  
E うん…

E、おそろおそろFに近づいてみる。

- E あの  
F ?  
E (反応があることを皆に報告して) あの  
F ?  
E (次の言葉に迷って) …いい天気ですね。  
D 聞いた？  
C いい天気って。  
B いや天気なんて分からんし。  
A ここ、地下だよ。  
D 夜だし。  
G ちなみに今日は(今日の天気)でした。  
E (後ろの小言を振り切って) あの！  
F ?  
E あの  
F ?  
E あの…  
C 彼 Bは Dろう、Gとは、C外部 Aの B音声情報 CをG大脳 Aに D送る Gため Aの B部  
位 C外耳 D中耳 A内耳 D聴神経 Cいずれかに B障害 Aが Cある Bため Aに D聞こえに  
くい Dあるいは C聞こえない B状態、A聴覚障害、G伝音性 Aあるいは D感音性 Cあるいは  
B混合性 G聴覚障害 Aの D一種、B先天性 Aあるいは C後天性 G原因 Aに Dよる B聞こ  
えない C状態 Aの G一種。  
C 彼 Bに、A音 Dは G届かない。 Eえっ？ A人が C外耳 D中耳 G内耳 D聴神経 Aを B  
通して D受け取る C振動 Aの D集合体 Aが、G彼の B大脳までC侵略 Aする Gことは D無  
い。

F と、彼らは勝手に僕を見て来るけれど、実際僕の脳には振動の集合体が侵略に向かってきていて、振動を、たぶんこれは音なんだと認知しているので、音が届いていないわけではないのだと思うのだけれど、僕の音は皮膚や骨から伝わってくる振動の変換であって音楽にはなり得ていないのかもしれない。と、台本に書いてあるので、僕はそう認識していることにする。ただ僕は音楽と言うものが何なのか知らないし、知り得ないし、知らないままでも楽しく生きているので、別に僕に音楽の素晴らしさとか芸術性

とか意味とかいうものが伝わらなくても、それはそれでいいのだけれど。

- D 大問題だよ
- C 大いに困るよ
- G そうなの？
- A 彼女にとっては

全員、Eを見る。E、呆然と立っている。

B 音楽 Cに B言葉 Cは Dいらぬ Aのは D音楽 Aが D誰か Bに G何か C  
を A伝える B起こす D広げる C力 Gを E持っている Dような A気 Dが Cして  
いる Gから。B言葉 Cに B音楽 Cは Dいらぬ Aのは D言葉 Aが D誰か Bに  
G何か Cを A伝える B起こす D広げる C力 Gを E持っている Dような A気 D  
が Cしている Gから。  
Eでも Aそれでも C出会って Dしまった B出会えた Eずっと昔 Aずっとずっと昔 G  
出会って Dしまった B出会えた Cのは E同じもの Aじゃない Cから。Gつまり？  
Dつまり A音楽って Eなに？ B人が Aヒトという G生物が D伝達 E共有 G認証 A  
表明 B選択 A測定 G拡散 E拡大の D手段 Aから D阿鼻 E叫喚 G狂信 A崇拜 B強  
制 A規制 Gに D侵され今 Aまだ Bここに Cある。G音を D楽しむ E打楽器 A  
管楽器 E鍵盤楽器 A弦楽器 C声 D身体 C道具 B目で見て G耳で聞いて C耳で。

全員、Fを見る。F、円を描いている。

音楽と言葉のリズムに、少しずつ歪みがおおきくなる。

E 伝えたいから。  
G誰が？ E私が Bどうやって？ A声で D手で E足で G道具で A誰と？ E誰かと  
C君と D僕と E私と B誰かと A音で？ E音楽で B何かを D言葉でない C何かを  
E伝えたいから D何を？ Cただ Bここに E私を。  
A 聞こえないよ  
E え？  
A聞こえないよ C伝わらないよ G無理だよ D聞こえないから B届かない  
E 届く  
G無理だよ C伝わらないよ Dていうかさ Bそもそも Cもそもそ A(はたき)その気 B  
あんの？  
E え？  
A伝える気 Bあるの？ C何を？ D何かを？ G何かって A何を？  
B享有する C何かを D共有する G気 Aあるの？ Bただ C立って Dもしくは G動い  
て A大声で Bあるいは C小声で Dあるいは G身体で A道具で B音楽 Cとか D言  
っちゃって G本当は A本当はさ

- B 発散 C とかさ D したいだけ G なんじゃ A ないの? B 自己表現 C 自己実現 D 承認欲求 G 私利私欲 A 個人主義 B 今日の終わり C 明日の予定 D 停滞する日々 G どうでもいい価値 A アイデンティティ B みたいな C そういう D そういうことってさ A それってつまり B 自己満でも C いいわけ? A 伝えたい B とかさ C 誰に? D 何を? G 何で? A 伝える B とか C 起こす D とか G 広げる A とか B 別に C 思ってるの? D 音楽 G に A それ B 必要? E 思ってるよ。必要だよ。 C 誰に? D 誰かに? G 不特定の D 誰かに? E そこにいる、彼に。 A ふーん C じゃあ B 今 G 1人 D たった一人 A 彼だけが C 目の前にいて B 彼だけが G そこにいて D それで A 伝えたい C 何かを B 言葉でない D 何かを G 彼に A 彼だけに C 伝えるの? E え? A 聞こえない C 彼に B わざわざ C ざわざわ A (はたく) 言葉でなく D それ以外の G 何かでなく D 振動でもなく G 音でもなく A 音楽で B 音楽を選んで C 何かを B 気持ち? G ニュアンス? A 感情? C 的な B なんかを G 伝える気 D あるの? E やめてよ D え E そういうの、やめてよ。 D あれ C 何 A ムキに B なってる? G これ A 芝居だよ。 E え? D ただの B 芝居。(全員、台本を掲げる) E ああ…… C なかったことに A できる G 魔法の B 戯言。 D 支離滅裂な A 妄想 B 虚言 C 作り物。 E ああ……。

E、輪の中に戻る。 F、ふと手を止め

F と、何故か伝えることに固執する彼女は勝手に落ち込んでいるけれど、別に音楽することに伝えなければいけないなんて義務はないし、発散でもそれはそれで大切だし、音のない世界に生きる僕が音のある世界にわざわざ足を踏み入れる必要もないし、どちらかと言えば僕は言葉を頼りに生活しているんだろうけど、それだって色々な種類があって、例えば日本語で生きている僕が日本手話で生きている人たちに日本語で何かを伝えなければいけないなんて義務を感じたことは無いし。

ところで、僕はさつきから僕の周りに円を描いているけれど、彼女はそのことに気がついていないし、僕が何故円を描いているのか彼女には理解できないだろうし、寧ろ彼女自身が円を描いているという錯覚に陥っているのかもしれない。

E ああ

F と、彼女は果敢に僕にアプローチを続けているけれど、そもそもその時点で彼女は音楽を用いていないことに、彼女は気がついていないし、彼女自身の何故か固執している音楽と言うものの力を自ら否定していることにも気がついていない。と、台本に書いてあるので僕はそう思うことにしている。

C 大問題だよ。

D 大いに困るよ。

G そうなの？

A 彼女にとっては。

E 伝えたいから D 何で G どうして E たぶん A たぶん E 共感したいから B 誰と？ E

だれかと C 君と D 僕と G 私と E 共有したいから A 何を？ E 孤独を B 暗い C 何かを

D 不満を E 不安を A 自己表現 D 自己実現 C 承認欲求 G 私利私欲 B 個人主義 A 今日の

終わり D 明日の予定 E 停滞する日々 C どうでもいい価値 G アイデンティティ B みたいな

A そういう D そういうさ E 何かを C ニュアンスを G じゃあ B それが A 伝わったとして

B 正しく C 伝わったとして E 彼が D 何かを G 感じたとして A それ D 受け止める C 気

B あるの？ E え？

A 伝える C 気持ち D と E 伝わる C 気持ち D は A ほとんど B 一致する。伝わる C 気持

ち C と E 起こる C 気持ち D は A 大体 B 一致する。

A けど G 伝わらない C こと B だって D あるし G 起こらない C こと B だって D ある

し G 一致しない C こと B だって D ある。

A 悲しい(発する) E 悲しい(受け取る) C 嬉しい(起こる)。

A 楽しい(発する) E 楽しい(伝わる) D 憎い(起こる)。

E やめてよ

A あれ C 何 D ムキに G なってんの？ B これ D 芝居だよ。 C 台本通り B 台詞通り A

読んだけだけの G 妄想 D 虚言 C 魔法の B 戯言 A 根拠 C 証拠 B 道理 G 正義 E なん

て C ないんだよ B たぶん A きっと G そうかもしれない B 日々だって、 A そうだけど

D 全会一致 G 個性の尊重 A いじめ B 喧嘩 C 仲直り D わだかまり G 感謝 A 謝罪 B あ

りがとう C すみません D おはよう G お休み A また今度 B 少し C たくさん D 弱い G

強い A 怖い B 可愛い C 空気読んだ D みんなでやった G 貫く信念 A 抱く疑念 B 明るい

未来 C 良かったあの頃 D 共感 G 共感 A 違和感 B 歪み

以下、Fの長台詞と一緒に

C 死んでる金魚 D あくびする猫 G 吠える犬 A 鼻をほじる子ども B 屁をこく父さん C 喘ぐ母

さん A 大規模災害 B 漫才政治 C 救援物資 D 女子高生 G いらぬ娯楽 E イマキタ三行

A 一斉自粛 B 台本通り C 記者会見 D 魔法の G 戯言 A メルカリでした B 受験落ちた C

戦争 D 平和 G マジ卍 E 道理 A 正義 B 悪いこと C なんて D ないんだよ G たぶん A

きつと B そうかもしれない C 日々だって D そうだけど A 自己表現 D 自己実現 C 承認欲求

G 私利私欲 B 個人主義 A 今日の終わり D 明日の予定 E 停滞する日々 C どうでもいい価値

G アイデンティティ D 親の期待 G 普通の将来 E 就職活動 A 隠し事 B カルロス・ゴーン

C 彼女とセックス D 彼氏は浮気 G バイト生活 A 路上で嘔吐 B 朝まで歌った C 満足できた  
D 拍手貰った G 次の日バイト E 孤独を B 暗い C 何かを D 不満を E 不安を A 自己表現  
D 自己実現 C 承認欲求 G 私利私欲 B 個人主義 A 今日の終わり D 明日の予定 E 停滞する  
日々 C どうでもいい価値 G アイデンティティ

F と、彼らは日々についての物事を、抱いたり投げたり壊したり叫んだりしているわけだけれど、僕  
だっけ何かしら抱えているモノはあるし、投げ出してしまいたいコトだっけあるし否定したり応援した  
り共有したいモノだっけあるけれど、それを不特定の誰かあるはそこにいる彼女に届けたとして何が  
どう変わっていくというのだろう。例えば、平和を願ったり例えば、抱きしめたいと思ったり例えば、  
感謝したり例えば、退屈を嘆いたりすることがだから、だからなんだよ。うるせえんだよ。と、台本に  
書いてあるので僕はそれを読んでいる。

C 死んでる金魚 D あくびする猫 G 吠える犬 鼻をほじる子ども B 尻をこく父さん C 喘ぐ母さ  
ん E 全部 A ぜーんぶ E 何もかも

ひときわ大きな音が鳴る。演技者たちは一度、動きも発音も止めてしまう。

E …の、一瞬で消えてしまえたら、簡単なのに、それだけじゃ、足りない気がして、まだ、ここに、  
いる、よ。

F、顔を上げて全員、の中の、Eを見る。

E 言葉は D 発音され G 意味づけされ E つなげられ D 区切られ G 役づけされ E 分類され D 整理  
され G 詰め込まれ E 混ぜられ D 喧嘩され G 発展され E 高度化され D 残され G 捨てられ E 生か  
され D 殺され G 憎まれ E 愛され D 嫌われ G 頼られ今、E まだ、D ここに、G ある E のは、C  
人間が G 人が A 一人では E なかったから。

E 音楽は D 発音され G 意味づけされ E つなげられ D 区切られ G 役づけされ E 分類され D 整理  
され G 詰め込まれ E 混ぜられ D 喧嘩され G 発展され E 高度化され D 残され G 捨てられ E 生か  
され D 殺され G 憎まれ E 愛され D 嫌われ G 頼られ今、E まだ、D ここに、G ある E のは、B  
人間が A 人が C 誰かに E 何かを D 記号ではない G 言葉にならない D 何かを E 伝え  
たかったから

B 共有したかったから。

E 私は、彼が円を描いていることに気がついてたし、その意図するところが何なのかはなんとなく  
想像がついているし、彼が何事かを思っていることも気がついてたけれど、台本に「気がつか  
ないように」とメモしてあったので「気がつかないふり」をして無視していた。身長体重視力声色見た  
目思考に千差万別あるように、聴力も千差万別だし、歳をとれば大体の人は聞こえにくくなると思われ  
ているし、生きていれば事故だ病気だなんだで聞こえなくなる事だってあるだろうし、別に特別悲し  
いことではないけれど、私は、私が、まだ、ここに、いるのは、

A 音楽 B にしか C 出来ない D 何かが G あって A 音楽 B でしか C 出来ない E と信じ  
ている D 何かが G あって、A 音楽 B だから C 伝えたい D 何かが G あって B 音楽 A  
と C 感情 A の G 作用 A に E ついては B 様々な研究 D あるいは体験 C あるいは計算  
D あるいは予測 A による B 確かな G 結果 A が B ある。 E 例えば D ホンの少し C あ  
るいは B 全く A 伝わらなくても G かなり C あるいは B 全く A 同じでなくても E 例え  
ば

E、Fの描いた円の一部を消す。

A ほんの少し、E 届くというのなら、C 私 D は E 信じたい。 D 信じて G 今、B たくさん  
A の、E 私が、A あるいは、D 違う C 何かを G 信じた E 私が D まだ C ここで B どこか  
で A 何かを E 奏でている。 B 一人 E でなく、G 誰かに C 向けて、D 誰かの前で、B  
あるいは A 画面の前で、B あるいは C スピーカーや D イヤホンを通して、E 誰かに、A  
向けている。 B 訴えている。 C 叫んでいる。 D 慰めている。 G 呼んでいる。 A 叱ってい  
る。 B 泣きついている。 C 笑っている。 D 寄り添っている。 G その B 誰か、D に、A あな  
たも、E 招きたい。

E 音楽 C と A 言葉 C が D 出会った G 出会って B しまった E 出会えた B ように、

A また別の C 何かに B 出会える D ように、

E 分け合って

F 補って

E 変化して

F 進んでいく

B ように E 私も、D あなたと、B 出会いたい。

E あの

F はい

E あの……元気ですか。

F はい

E 楽しくやっていますか

F はい

E 疲れていませんか

F はい

E 寂しくないですか

F ……はい

E 一曲、聞きませんか

F ……はい。

F、1歩だけ、円の外に出る。

全員、台本を上へ投げ捨てる。

全  
終わり！！！！

おしまい